

寄生虫検査の現状

◎松村 隆弘¹⁾
学校法人北陸大学¹⁾

寄生虫感染症は戦後の徹底したマスキングや集団駆虫、公衆衛生の改善により、日本での感染者は激減している現状がある。そのため、臨床検査室での寄生虫検査依頼数も減り、寄生虫検査の技術や知識の定着が困難となっている。そこで、寄生虫検査の現状を把握するために2020年度、(社)日本臨床衛生検査技師会中部圏支部臨床一般部門が実施した寄生虫検査アンケートを実施した。寄生虫検査の実施場所を問う項目では「自施設で糞便検査を実施している」が55.4%、「全て検査センターへ委託」が37.6%、「自施設+検査センター」が3.9%であった。「全て検査センターへ委託」が37.6%という結果から、寄生虫検査における検査センターの貢献度が高いことが窺えた。さらに自施設で検査をしていると回答があった施設の中には「直接塗沫法のみ」という施設も散見され、正確に寄生虫検査が実施されていない実態も明らかとなった。

本シンポジウムではISO15189認定施設と検査センターの技師に今と昔の寄生虫検査の変化やどのように正確に寄生虫検査が実施されているのか、どのような事に悩んでいるのかをお話ししていただき、皆で共有し、寄生虫検査の今後の在り方について考えていきたい。

連絡先：t-matsumura@hokuriku-u.ac.jp 076-229-1161 (内線 5972)